

令和6年度第2回仙台市宮城野区区民協働まちづくり事業 評価委員会 令和6年度まちづくり活動助成事業実績報告及び事後評価 議事要旨

日 時：令和7年2月14日(金) 午後6時30分～7時50分

場 所：宮城野区中央市民センター 2階 第2会議室

出席者：大西委員長、有坂副委員長、葛西委員、安部委員、眞野委員
まちづくり推進課

1 開会

2 事業報告及び質疑応答

- (1) 事業名：おやこの育ちあい事業～地域パートナーとの協働を通して～
団体名：KOSODATE 応援会【2年目】

<質疑・意見>

委 員 応募時の事業明会では助成金が終了した後も自立して活動できるよう、収入については、自分達で自己資金を調達する算段をつけて欲しいとお伝えしていた。収入については、本助成金と児童館からの入金のみとなっており、参加者からの参加費を徴収していない。その経緯と今後の他の収入見込みがあれば教えて欲しい。また、1年目の応募時には、託児スタッフへの謝金を削減するため、自分達の団体で託児スタッフを養成するなどの計画を立てていたが経費削減の見込みがあれば合わせて教えて欲しい。

発表者 今年度は、ポジティブ・ディシプリン®のプログラムに賛同してくださった児童館を会場にしているため、参加者から料金を徴収する催しものはできない。その代わりに、会場を提供して下さっている児童館から参加者の資料代をいただいている。経費の大部分を占めている託児スタッフの謝金については、生涯学習支援センターで養成している託児ボランティアを紹介いただき、費用削減を図っている。

委 員 このポジティブ・ディシプリン®の思想を普及する活動は大変素晴らしいものなので、児童館以外での場所や助成が終わった場合にも是非継続して普及できるようにして欲しい。そのためには費用の大部分を占める外部講師謝礼や託児スタッフ費用の支出を削減する必要があると考えている。今年助成2年目となるので、1年目と違った成果や試みがあれば教えて欲しい。

発表者 託児スタッフは、託児ボランティアにご協力いただくことで費用削減をはかった。ただ我々としては、お子さんを預かる責任が生じるため、ボランティアとはいえ、多少なりとも謝金はお支払いをしたいと考えている。また、このプログラム自体を非営利でおこなう必要があることに加え、年30万円程度の経費に見合った参加費用を徴収しようとする、「お金がある人だけが参加できる」プログラムになってしまう、「誰でもが参加できる」プログラムにならなくなってしまう。我々としては、参加者からの費用の徴収ではなく、「誰でも参加できる」ポジティブ・ディシプリン®のプログラムであるというところに賛同してもらえる仲間を見つける必要があると考えている。収入の改善面では、宮城野区以外の場所でも本プログラムを実施しており、そちらは会場が児童館ではないため、参加者から参加費用を徴収している。また、他の助成金を活用して事業を実施している。

委 員 このプログラムは子供の人権に守る意義のある活動なので、助成が無くとも、地域の

- 人に賛同してもらうことで活動を継続できるようにして欲しい。
- 発表者 来年度は助成３年目となるので、地域の人に賛同いただけるよう励んでいきたい。
- 委員 この活動は年９回の回数を重ねたプログラムとなっており、プログラム運営の時間をとることが大変だと思うが、何名体制でプログラムを運営しているのか？
- 発表者 団体３名、託児スタッフ５名、外部講師１名の９名体制で運営している。
- 委員 今回の事業名に『地域パートナーとの「協働」を通して～』とあるが、誰と誰の「協働」なのかを教えて欲しい。
- 発表者 児童館と我々との認識である。児童館からは、会場提供や運営、チラシの配架等の周知の協力や、地域支援者の集まりに我々を紹介していただいたと認識している。また、児童館では以前から連続したコンテンツを実施したいと考えていたところに、我々のプログラムが合致し、一緒にやる意義を見出してもらったと考えている。
- 委員 そのような定性的な効果についても、是非実績報告書に記載してもらいたい。より事業の効果が伝わりやすいものになるかと思う。最後に、このプログラムを広げる展望などがあれば教えて欲しい。
- 発表者 プログラムを広げたいと考えているので、児童館以外でもプログラムを行う検討をしたい。
- 委員 昨年度と比較して、参加人数がどの程度増えたか、もしくは定員などがあれば教えて欲しい。また、この事業を実施する上で一番苦労した点を教えて欲しい。
- 発表者 プログラムの進行と会場の広さから定員１２人としている。人集めもそうだが、託児に係る費用が大きく、そこを削減することに尽力している。

(2) 事業名：防災アドベンチャー
団体名：災強のすけっと【1年目】

<質疑・意見>

委 員 ワークショップのグッズ費の内訳を教えて欲しい。

発表者 防災バックと防災用 LED ライトや災強のすけっとのステッカー等を参加した親子 14 名に配布している。

委 員 パンフレットの完成時期を教えて欲しい。

発表者 2 月末に完成しており、3 月の防災未来フォーラム等で配布する予定である。

委 員 町内会では避難所を運営する機会があるので、親子さんを対象とした防災アドベンチャー等の楽しみながらできる防災訓練は、非常に有難く良いことだと考えている。防災アドベンチャーを行った町内会の防災訓練に参加したり、SBLとの協業ができた等の話があれば教えて欲しい。

発表者 今年度は、防災訓練に参加できていない。防災アドベンチャーを行った地域での防災訓練や避難訓練に参加することで気づくこともあると思っており、参加すべきだと思っている。また、実際に参加することで、地域のSBLの方や、町内会の防災担当の方に防災パンフレットを見ていただく機会ができ、お互いに情報交換ができればより良いものが作れると考えている。

委 員 良い取り組みなので、完成した防災パンフレットを是非見せて欲しい。町内会を代表して全面的に協力をしたい。

委 員 2 つ質問したい。1 つは、防災アドベンチャーの参加者募集の主体となったのは、町内会か貴団体か教えて欲しい。もう 1 つは、先ほどの報告で、防災パンフレット作成にあたって SNS を活用したいとのことだったが、具体的な内容を教えて欲しい。

発表者 参加者募集は、防災アドベンチャーを行った新田前町内会の子ども会に主体となって協力いただいた。我々は、当日のイベントスタッフの募集を行った。

今回作成した防災パンフレットについては、正しい内容を世に出したいという思いがあり、様々な分野の団体の方や専門家に監修していただいた。また、分かり易いデザインにするため検討を重ねた分、思うような進捗がはかれなかった。1 枚のパンフレットを作成するにあたり非常に時間が掛かったというのが率直な感想である。防災パンフレットの案を SNS に掲載し、今回監修していただいた人に加え、多くの人の目に触れて、一度に意見をもらう方法にすると、短時間で防災パンフレットをコンスタントに作成できるのではないかと思います、SNS を活用したいとの報告になった。

(3) 事業名：仙台門松を宮城野区に飾ろう
団体名：仙台門松・みやぎの発信隊【1年目】

<質疑・意見>

委員 仙台門松の宣伝に SNS を活用して、応援者を集め、多くの自己資金を調達していることは大変素晴らしいと考えている。今は力をためる時期なので、ぜひ2年間は助成金を活用して力をためていただき、助成が終わったら、ミニ門松作の販売やワークショップ参加費などで自走できるようにして欲しいと考えている。また、中学校の連携や町内会との連携もできている点は大変評価できる。

委員 SNS の更新はどなたがされているのか？またイベントの広報チラシは、どこに配架しているか教えて欲しい。

発表者 メンバーの家族に委託し、ワークショップや定例会などが開催された翌日には、記事を更新できるようにしている。チラシについては、宮城野区中央市民センターやその他の市民センター、荒井メモリアル交流館、博物館、NPO プラザ、田子郵便局や鶴巻コミュニティ・センター等に配架している。

今回は、SNS の効果でミニ門松づくりのワークショップには宮城区以外からの参加者もいた。

委員 説明の際に、返礼品との話が合ったが内容を具体的に教えて欲しい。

発表者 仙台門松を設置させてもらっている「鶴巻とみさい館」と我々とおこなっている企業寄付の制度があり、寄付のお礼として農産物のセットを送っている。返礼品は「鶴巻とみさい館」からの提供を受けているため、助成とは関係がない。

(4) 事業名：まちが元気になる！まなぶ、たのしむ、アートなまちのサークル事業
団体名：特定非営利活動法人アートワークショップすんぷちょ【1年目】

委員 地域子どもを集めるのに苦労したとの記載があるが、会場の近くにあるのびすくや児童館には声はかけたのか？

発表者 チラシの配架依頼とワークショップの案内をしたが、ワークショップ当日に児童館の行事があったため、思ったほど集客が見込めなかった。また、今後は児童館での開催なども今後検討していきたい。

委員 アートは触れて良いものだと皆感じるものだが、資金面で苦労される方が多い中、人形劇と盆踊りのワークショップを立ち上げている行動力に感服している。新しい歌と踊りをゼロからつくる盆踊りのワークショップでは、午前中の2回という短い時間で、新しい盆踊りを完成させているが、どなたかが凄く尽力したと考えている。どうやってこの短期間で完成させたのか教えて欲しい。

発表者 コーディネータを依頼したアーティストが非常に頑張ったと思っている。本人も大変だったと思う。7/14のワークショップの参加者で歌詞を作り、7/28の踊り作りまでの間に、自宅で作曲及び録音をして、音源を作った。7/28の踊りの振り付けも、参加者が歌詞から想起する動きを引きだし、それをつなげて踊りを作っている。これは、コミュニティダンスに長くかかわってきたアーティストのスキルがあって初めてできるものだと思う。応募当初にアーティストへの謝金が高いのではないかという意見があったが、今回の働き振りを考慮すると相応の謝金だと考えている。

委員 作った盆踊りは今後も踊ってもらえる見込みはあるのか？

発表者 今回作った音源をCDに焼いて、PTAや商店街、町内会に配布した。商店街のスピーカーで歌を流してもらえとの話をいただいている。町内会長からは、来年はも時間を取って、皆で踊りを覚えて踊りましょうとのお話もいただいているので、続けられると見込んでいる。

委員 宮城野区では「みやぎの盆唄」という盆踊りの普及活動をしていることは知っているか。

発表者 応募時の事業説明会の際に、委員から提案があったので知っている。後日、区から音源及び資料も提供いただいたが、今回の事業期間では、廃れゆく盆踊りの復活と新しい盆踊りを作ることによるコミュニティの再生を行うことは難しいと考え、当初の計画どおり新しい盆踊りづくりにフォーカスして事業を実施した。

委員 盆踊りのワークショップに参加した人数を教えて欲しい。

発表者 商店街とPTA、町内会で18名（大人14名、子供4名）である。

委員 4万4千円かけて作成したレポートはどのようなレポートか？

発表者 A4両面のレポートで、人形劇と盆踊りそれぞれの活動報告となっている。

委員 原町学区民夏祭りでの全体の盆踊りと、この事業で新しく作った盆踊りを踊っていた時間をそれぞれ教えて欲しい。

発表者 全体としては、よさこい等を含めて1時間程度、盆踊りを踊っていた。そのうち、新しく作った盆踊りは10分程度踊った。

3 閉会